北里研究所
110年前の感染対策
ポスター展
視察の報告

2023年8月26日

沼田詩暖

北里研究所記念館展示室入口にて：
北里柴三郎氏のアクリルスタンド

北里研究所記念館展示室で「110年前の感染症対策」ポスター展示とミュージアムトークに参加したことをご報告します。

ミュージアムトークでは北里柴三郎氏の感染症対策への貢献について北里柴三郎記念室の森孝之医学博士よりお話をお聞きしました。

またポスター展示では、110年前の感染症対策ポスターについて学芸員の方から詳しくお話を伺いました。このポスター展示では、トラホームといった眼病、水質汚染、ペスト、結核といった4種類の問題への対策についてのポスターが紹介されていました。トラホーム、水質汚染、ペストについては1913-14年に内務省衛生局が発行した「衛生思想涵養資料図解」といった資料に描かれていました。このシリーズは、政府によって感染症対策のために制作され、販売されていたようです。トラホームは視力低下や失明にも繋がる感染性の眼病であり、この時代に特に子どもの間で大流行して学校教育にも影響を与えたと仰っていました。この病気の対策として、タオルや寝具などの共有を避けること、神社参拝時などに鈴や撫で地蔵などに触れないことといったモノを介する接触の防止、また子守り・添い寝・遊びといった身体的な接触の防止について呼びかけられていました。ペスト対策については、看護による家庭内感染を防ぐといった点と、患者に接触する際には防護服のようなものを着るといった呼び掛けがなされていました。

結核については、1913年に作成された「結核退治絵解」といった、図を中心としたポスターがありました。消毒液の使用や煮沸消毒、抵抗力をつけること、密な環境の回避、咳をするときはヒトに向けないといったような今の概念に近い呼び掛けをしていました。このポスターではその他にも「飛沫」といった概念が既に登場していたり、「国民の力を結集」のような考え方も登場していました。

全体を通して、110年前のポスターであっても今の感染対策と根本的な点では変わっていないといった印象を受けました。現在私はパンデミックのELSIの事業内でCovid-19に関するポスターを収集していますが、ポスターでは時代を超えて同じような対策について啓発されています。